

令和4年9月10日(土)に、国立磐梯青少年交流の家において、「読書活動推進事業～発達段階などに応じた読書活動の推進のために～」(文部科学省委託事業)を開催いたしました。研修会の目的としては、学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図るとともに、乳幼児期から思春期に至る切れ目のない読書活動の推進により、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指すことです。

乳幼児期向け

〈講義〉「想いは絵本から。～読み重ねる大切さ～」

〈講師〉ぶれあ保育園・南行徳 保育士 田中 雄人氏

- 乳幼児期から読み聞かせすることの大切さ
- 各年齢にあった絵本の選び方
- 読み聞かせの積み重ねによる子どもの変化



小学校期向け

〈講義〉「未来につなげる読書環境～子どもと本を結び南相馬市立図書館のアウトリーチサービス～」

〈講師〉南相馬市立図書館 主任司書 佐藤 真紀氏

- 読み聞かせすることの意味や大切さ
- 学校図書館運営に関する支援の在り方
- 学校司書の能力向上に関すること



中高校期向け

〈講義〉「読書を含む活字情報採取の変容が子どもの社会化に及ぼす影響～調査データの分析結果に基づく考察～」

〈講師〉東京学芸大学教育学部准教授 腰越 滋氏

- 読書に関する調査分析より、子どもの読書活動の実態
- 家庭環境が子どもの読書活動に及ぼす影響
- 子どもの社会化に読書が与える影響



パネルディスカッション

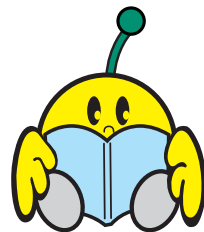
〈テーマ〉「切れ目のない読書支援に必要なことは？」

〈コーディネーター〉福島大学人間発達文化学類 教授 兼 福島大学附属小学校長 佐藤 佐敏氏

〈パネリスト〉東京学芸大学教育学部 准教授 腰越 滋氏

南相馬市立図書館 主任司書 佐藤 真紀氏

ぶれあ保育園・南行徳 保育士 田中 雄人氏



参加者の声

- 乳幼児期は、絵本や物語を読んでもらうことを通じて絵本や物語に興味を示すようになる。まずは、大人と一緒に本を楽しみ、子どもに寄り添うことが大切だと感じた。
- 読書の意義を深く考えさせられた。また、発達段階ごとの支援の在り方について、貴重な意見が聞けてよかった。
- 発達段階や多様なニーズに対応できる環境整備が必要だと感じた。